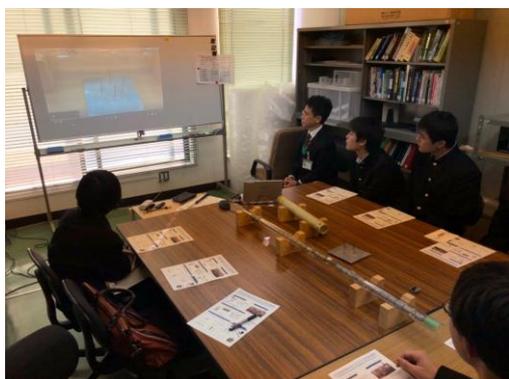


研究室訪問（2年生対象）

～大学での研究活動をより具体的に知る～



12月21日（金）、大阪電気通信大学（寝屋川キャンパス）を訪問しました。

淀工工学系2年生の希望者を対象に、特別プログラムを実施していただきました。研究・実験装置の紹介や学生の皆さんの居室まで足を踏み入れ、学部生・院生の方々の生の声を聞かせていただきました。短い時間でしたが、大学での研究生活を垣間見ることができました。

訪問先：工学部 電気電子工学科 海老原 聡 研究室

：情報通信工学部 通信工学科 柴垣 佳明 研究室

生徒たちの感想（抜粋）

- ・ボアホールレーダのしくみを説明してもらった。室内で動作チェックし、実際に地中に埋めて実験を繰り返す。失敗を重ねて、成功へとつなげているのにすごく感心しました。
- ・第1級陸上特殊無線技士などの資格が卒業時に取得できる。ラズベリーパイを用いて遠隔操作や無線防犯システムなど、高校とは違うスケールだった。
- ・難しい話だったので理解はできませんでしたが、学生さんたちが、興味をもって真剣に取り組んでいるのが伝わってきた。社会に役立つ便利な世の中になるには、あのような学生さんたちの取り組みが大切だと感じた。
- ・3次元計測可能なボアホールレーダの研究では、地面等にある物体の位置を計測できるので実用性の高い研究だと思いました。
- ・レーダやスピーカ等を使用して、無線の人感知システムを研究しているのがすごいと思った。
- ・学生さんたちの話の中で、いろいろな資格や数学や工業などの教員免許も取れることを知った。
- ・淀工の先輩が、ビデオレターを用意してくれたので、研究や打ち込んでいる事などが良く分かった。
- ・学生さんたちみんなが、高校のときにやっておいた方がいいのは「数学」と言っていた。数学は電気の専門分野でも必要になるとの事。この冬休みは数学を勉強してみようと思った。
- ・自分たちは1、2枚のレポートが多いが、大学でのレポートは、10枚、多いときには30枚と聞いて驚いた。
- ・知識がなくても、一から教えてもらうことができるって聞いたのですごく安心した。数学や物理は苦勞するから、高校でしっかり勉強しとくべきだということがわかった。
- ・学生の方々がどのような実験・研究をしているかを見せてもらった。ラズベリーパイという小型のコンピュータを使って、携帯アプリで制御するという、今風の研究だなと思った。